

平成30年度第6回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（紀北会場）

1. 日 時 平成30年11月19日（月） 14:00～16:30
2. 場 所 九度山町中央公民館 大会議室
3. 参加者 教職員・学校運営協議会委員・共育コーディネーター 等
合計 68名
4. 内 容

◆講演

「学校運営協議会と地域との接続のしかた」
文部科学省CSマイスター

井上 尚子 氏

- 学校運営協議会と地域学校協働活動（共育コミュニティ）のありかた
 - ・学校の未来を考え、地域の方々と活動を展開する一体的推進で成立する。
 - ・学校運営の基本的方針を通じて連携する。
 - ・学校運営協議会は学校の経営力を高める。
 - ・地域学校協働活動は学校の運営力を高める。
 - ・学校と地域がわかり合い、互いにリスペクトする関係づくりが大切である。
- 学校運営協議会の具体的な運営
 - ・校長の経営ビジョンを知る。
 - ・学校運営協議会委員と教職員の交流機会をつくる。
 - ・「わかりあい」をする工夫が大切である。
 - 委員と教職員の握手会、サマーワークショップ（熟議）、情報発信等
 - ・委員による地域への広報活動が大切である。
- 杉並区立天沼小学校の実践から
 - ・学校に地域の人々の居場所がある。
 - ・学校運営協議会と学校支援地域本部とPTAとが並列感をもって活動する。
 - ・学校運営協議会委員が校長のビジョンを理解し、地域住民に発信する。
 - ・特色ある教育活動の方針に基づき、学校運営協議会が企画・立案したものを地域学校協働活動が実践する。
 - ・PTAは、保護者としての視点をもって参加し役割を果たす。
 - ・課題が出れば共に解決への方策を考え、コーディネーターが地域の人をつなぐ（協働）。
 - ・目標を共有し、当事者意識を持って行動する。
 - ・初めは迷いの時期が必ずある。あせらず一歩ずつ進めていく。



◆シンポジウム

テーマ：「地域の力を生かす学校運営協議会」

コーディネーター

文部科学省CSマイスター

井上 尚子 氏

シンポジスト

橋本高等学校古佐田丘中学校中高一貫学校地域連携推進委員会

会長 北浦 健司 氏

委員 南 正樹 氏

委員 向井 景子 氏

九度山町コミュニティスクール推進員 玉置 巖 氏

- 橋本高等学校古佐田丘中学校の取組
 - ・中学校はインプットの時期。地域の方々からふるさについて学ぶ。
 - ・高等学校はアウトプットの時期。地域貢献活動につなげる。
 - ・学校・家庭・地域が協力した既存の教育活動を生かす。
 - ・高校の地域は広範囲にわたるが、クラブ活動を中心に地域貢献をしているので、それを学校全体のボランティア活動に接続する。

- ・学校運営協議会委員が橋本警察署と高校をつなぎ、地域の安全点検を実施している。

○九度山町の取組

- ・コミュニティスクール推進員は、週に一度、保育園・幼稚園・小・中学校を訪問する。
- ・学校運営協議会で、警察と連携してスマホの使い方について学習した。
- ・学校運営協議会は、「コミュニティだより」を活用した広報活動を工夫している。
- ・共育コーディネーターとの連携がこれからの課題である。



○地域の力を生かすために

- ・学校運営協議会は、学校の教育活動を理解し、何ができるかをいっしょに考える場として、どんなことでも話し合える関係を大切にする。
- ・学校運営協議会委員一人一人がそれぞれのつながりを知っておく。
- ・コーディネーターの力が円滑な活動につながる。
- ・学校運営協議会で話し合ったことを持ち帰り、自分の職場でも生かす。
- ・高校生とともに大人も育っていききたい。
- ・子供の成長を見つめながら、学校運営協議会で意見を述べる。
- ・小中学生は地域の人々からの支援が多い。高校生になるとそれを素地にして地域貢献や学習支援等の活動ができるようになる。それがふるさとの未来を託せる子供を育てることにつながる。

5. 参加者の声（アンケートより）

- ・コーディネーターが活動のつなぎ手であり、重要な役割を担っていると痛切に感じた。また、つなぎ役はそれぞれの分野でしっかりつながっておかないといけないこと、それぞれの実態も知っておかないといけないことを知った。（小中学校教員）
- ・高校生ボランティアの力は本当に力強いものがある。「たよられること」「自分は役に立っている」の実感はすてきだ。（共育コーディネーター）
- ・学校と地域の垣根のない関係・環境が活動の成功につながっていることがわかった。（学校運営協議会委員）
- ・CSと共育コミュニティの関係性が見えてきた。大変参考になった。（学校運営協議会委員）
- ・講演では失敗談を交えた体験談がとても参考になった。コミュニティ・スクールがうまく展開するまでには時間がかかることもわかったので、あわてず着実にやっていこうと思った。シンポジウムでは成功体験を知ることができ勉強になった。（県立学校職員）
- ・学校運営協議会の組織作りや活動について大変よくわかった。方向性についてもイメージできた素晴らしい研修会だった。ただ、学校運営協議会設置に向けての初年度の人材の確保と組織立てていくための人材の適所と育成について苦慮しているので、次回研修会で計画してほしい。（公民館職員・学校運営協議会委員）

6. 研修会を通して

- ・学校運営協議会と地域学校協働活動が連携をするためには、それぞれが当事者として「どんな子供を育てたいか」等といったビジョンを共有し、共通の目標に向かって考え、取り組むことが大切である。そのためには、学校運営協議会の取組を知ってもらい、お互いを理解することが大切である。